

2023 年度 西南学院の決算概要について

西南学院をはじめ私学振興助成法により補助金の交付を受ける学校法人は、学校法人会計基準の定めに従い会計処理を行い、計算書類(決算書)を作成する必要があります。本学院の 2023 年度決算は、5 月 17 日に監事監査を終了し、5 月 30 日の定期理事会において承認されましたので、その概要についてご報告いたします。

(1) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、当該年度の「教育活動」「教育活動以外の経常的な活動」「その他の活動」に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、収支の均衡状態を示すものです。

教育活動収入においては、2020 年度から開始された高等教育の修学支援制度では、経常費等補助金に 517,070 千円を受け入れて授業料減免を行いました。

教育活動支出では、新型コロナウイルス感染症の位置づけが「新型インフルエンザ等感染症(2 類相当)」から「5 類」へ変更になり、諸行事が実施されたことにより予算執行率は上がったものの、予算残が発生し、予算比で 668,030 千円少なくなりました。

人件費は 7,531,941 千円であり、経常収入に対する割合は 56.6%と、全国平均(同系統法人平均) 52.1%より高い割合を占めています。教育研究経費は前年度より 313,808 千円増加し、経常収入に対する割合は 30.2%で、全国平均(同系統法人平均) 34.0%より低い割合となっています。

事業活動収入は、前年度より 176,630 千円増加し、予算比で 81,023 千円多くなっています。事業活動支出は、前年度より 731,825 千円増加し、予算比で 740,542 千円少なくなりました。この結果、基本金組入前当年度収支差額は予算より 821,565 千円改善され、858,510 千円となりました。事業活動収入に対する基本金組入前当年度収支差額の比率を示す事業活動収支差額比率は 6.4%です。

基本金については、第 1 号基本金では、大学新体育館・プール棟新築工事、中学校・高等学校の給湯器入替工事、小学校教育システムの更新、幼稚園園舎西側トイレ・シャワー室改修工事、保育所床暖房設備工事と、備品総合償却等を部門別に相殺し、基本金の組入れ 483,927 千円と取崩し 43,207 千円を計上しています。新体育館建築のための資金は、第 2 号基本金から振替を行いました。第 2 号基本金の組入れは、西南会館、学術研究所、新講義棟建築のための 350,000 千円及び中学校・高等学校校舎改築資金 100,000 千円です。第 3 号基本金の基本金組入れは、大学奨学金、中学校・高等学校奨学基金等の 200,631 千円です。

基本金組入後の当年度収支差額は、予算より 968,357 千円好転しましたが、276,047 千円の支出超過となりました。当年度収支差額に前年度繰越収支差額、基本金取崩額を加えた翌年度繰越収支差額は 1,629,644 千円の支出超過となっています。

(2) 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに支払資金の収入及び支出の顛末を明らかにするための計算書です。

当年度の資金収入は 20,249,949 千円で、前年度繰越支払資金 7,871,190 千円を合わせた資金収入の部合計は 28,121,138 千円となりました。一方、当年度の資金支出は 19,118,790 千円です。

資金収入の部合計から当年度の資金支出を控除した翌年度繰越支払資金は、前年度より 1,131,159 千円増加して 9,002,348 千円となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は、年度末における学校法人の財政状態を示しています。

当年度末の資産の部合計は 75,988,796 千円で前年度より 774,145 千円増加、負債の部合計は 5,961,282 千円で前年度より 84,366 千円減少しました。その結果、純資産の部は前年度より 858,510 千円増加して 70,027,514 千円となりました。

資産の部合計の内訳は、固定資産では、有形固定資産が 42,288,841 千円、各種引当資産である特定資産が 12,769,506 千円、有価証券等を含むその他の固定資産が 11,514,642 千円です。流動資産では、現金預金 9,002,348 千円を含めて 9,415,807 千円となっています。なお、2009 年度末以降、借入金はありません。